



校長室の窓から

《校長だより》

神奈川県立市ケ尾高等学校

校長 増淵 広美

平成 29 年 1 月 23 日

第 19 号

「今」に集中する ～志望校への強い思いと揺るぎない自信を持って～

1月14日(土)、15日(日)の大学入試センター試験も無事終わり、いよいよ一般入試のシーズン到来です。過去に何回かセンター試験当日が大雪だったこともあり、毎年天候が気になります。今年も、寒波到来の予報が出ていたので毎日天気予報を気にしていましたが、荒天に見舞われることもなく、本校の出願者343名全員が無事に受験できたことに安堵しています。16日(月)にはセンターリサーチを行い、その分析結果を受けて、国公立志望の皆さんは、個別学力検査(二次試験)に向けて対策を練り、全力で取り組んでいることと思います。3年生の担任も、キャリア支援グループの担当のリードのもと、放課後遅くまで残って全国のデータをもとに動向を探り、より充実した進路指導・支援ができるよう研究に余念がありません。

センター試験の結果については、一人ひとりそれぞれの思いで受け止めていることと思います。しかし、大切なことは、感情にとらわれることなく「結果」として客観的に受け止めることです。そして、志望校合格に向けた最善策を立て、「今」に集中して前へ前へと進むことです。気を抜くことなく、怯むことなく、志望校への強い思いと自分に対する揺るぎない自信を持ち続け、やるべきことをやりさえすれば、道は必ず開けます。

国公立を目指す皆さんも、私立大学を目指す皆さんもこれから勝負です。残された時間を最大限に生かし、最後の最後まで全力を尽くしてください。現役生の強みは、最後の最後まで学力が伸び続けることです。

寒さ厳しく、風邪やインフルエンザが流行る季節です。体調管理に十分気をつけて、最高のコンディションで本番に臨んでください。皆さんの健闘を心から祈っています。

心を磨く ～まずは「凡事徹底」から～

先日、無名だった古川商業高校(現・古川学園高校)女子バレーボール部を12回全国制覇へ導いた元監督の国分秀男さんと仙台高校に続いて明成高校男子バスケットボール部を全国屈指の強豪に育て上げたヘッドコーチの佐藤久夫さんの対談を読んで、とても共感を覚えました。

お二人に共通するのは、人間教育なくして本当に勝ち続けるチーム、愛されるチームはつくれないということ。そして、生徒の人間的な成長を目指し、「心」を重視したチームづくりをしてこられた点です。

佐藤先生の学校の体育館の入り口には「礼儀を知らない者は入るべからず」と書かれ、ひたむきにディフェンスをする、ひたむきにボールを追う、ひたむきに頑張る、正々堂々と戦う、つまり、「あくまでも高校生らしく、一生懸命さは日本一になろう」をモットーに指導され、それがよい結果につながったと話されています。

国分先生は、全国大会の準々決勝の壁をなかなか破ることができず、「トップに行くには、自分で考え自分で決断し行動できる選手に育てなければならない」ことを痛感。常に選手自らに考えさせるようにし、その積み重ねが全国の頂点へのステップになったと話されています。また、「人の成長はその人の素直さに比例する」ともおっしゃっています。

このことは決してスポーツに限ったことではありません。「心を磨く」ことが人間的な成長につながり、あらゆる可能性を広げ、確かな実績にもつながります。

心を磨き、自分をより高めようとするのなら、まずは普通のこと、当たり前のこと(凡事)を徹底することです。大樹がしっかりと大地に根を張っているように、人としての基本をしっかり身に付けてこそ、大きな成長を期待することができます。「凡事徹底」については、4月の始業式で、書道部の木原さんが書いてくれた勢いに満ちた堂々たる「凡事徹底」という書を皆さんに見せ、「当たり前のことをおろそかにしないで徹底してやる、そして、それを継続す



見る人の心を豊かにしてくれる市高自慢の花壇。今年度の冬花壇のテーマは「勝利 Victory」。頭文字の「V」の形をデザインしています。PTA環境委員の皆さんが「未来に果敢に挑戦し、勝利をつかみ取って!」との願いと祈りを込めて整備してくださっています。寒い中の水やり、本当にありがとうございます。



自分のエベレストを一心に登る!

この年末年始、3年生の担任・副担・事務室が総がかりで、約3500通の調査書を作成しました。私も、クラス写真で一人ひとりの顔を確認し、合格を願いながら、調査書発行の決裁印を押しました。調査書作成に関わった誰もが、同じ思いだったと思います。

私の尊敬する女性の一人に登山家の田部井淳子さんがいます。田部井さんは、1975年35歳のときに女性として世界初のエベレストの登頂に成功し、1992年には、女性として世界初の七大陸最高峰登頂者となりました。

田部井さんがエベレストの登頂記に、頂上目前の心境をこう綴っています。「さあまた登れ、一步を。いつか必ずこの一步が終わる時がくる」。

皆さんは、今、自分の目標に向かって、全力を尽くしていることと思います。初めての大学受験。不安や緊張は自然な感覚です。だからこそ、「今」に集中し、自分の目指すエベレストの頂上に向かって一心に歩を進めてください。

登り切ったとき、そこには登った者だけが見ることのできる素晴らしい景色が広がっています。

るということを意識して1年を送ってほしい」と話しました。

市高生の皆さん、3学期にあたり、「凡事徹底」という視点でこれまでの自分を振り返ってみてください。あいさつをする、時間を管理する、身だしなみを整える、掃除を隅々まで丁寧にやる、自転車は所定の場所にきちんと並べて止める、授業を大切に、自分を大切に、それと同じように他者を大切に等々、市高生なら「当たり前」のことは、誰もが頭では十分わかっているはずです。

今年度の締め括りにあたる3学期。これまで以上に「凡事徹底」の実践を誠実に積み重ねてください。続けることで、それは習慣となり、自然な行いになります。そして、間違いなく一回りも二回りも成長した状態で新たな学年、新たな生活を迎えることができます。

皆さんの人生は、すべて皆さんの「心」から紡ぎ出されます。

「時間」は平等に与えられるプレゼント

◆◆時間に価値を与える

年を追うごとに時間の経つのが早く感じられます。皆さんも、小学生や中学生のころと比べて時間の流れを早く感じませんか。

とはいうものの、「時間」は私たちに平等に与えられています。1日は24時間、分に直せば1440分、秒に直せば86400秒。これはすべての人にとって同じです。この与えられた時間を、どのように使うか、どのように生きるかということで、その人の人生が成り立っています。時間に価値を与えるのは、私たち自身なのです。

もしかしたら聞いたこと、読んだことがあるかもしれませんが、お話を一つ紹介します。作者もわからず、ネット上で広まった話のようですが、とても心に残る話です。



『86400ドルのプレゼント』

もし、こんな銀行があったら、あなたはどのように利用しますか？

その銀行にお金を預けても、利子も付きませんし、お金を借りることもできません。しかし、その銀行は、毎朝あなたの口座へ86400ドルを振り込んでくれます。そして、あなたはそれを自由に使うことができます。但し、このお金は「魔法のお金」で、あなたが使い切っても、使い切らなくても、24時間で消えてしまいます。そして、0時になると、また86400ドル振り込まれます。これが毎日続きます。

あなただったらどうしますか。

もちろん、毎日86400ドル全額を引き出しますよね？この奇妙な銀行を、実は、私たち一人ひとりが持っているのです。

それは「時間」という銀行です。

毎朝、あなたに86400秒が与えられます。そして、毎晩、あなたが上手く使い切らなかった時間は消されてしまいます。それは、翌日に繰り越されませんし、貸し越すこともできません。

毎日、あなたのために新しい口座が開かれ、毎晩、その日の残りは燃やされてしまいます。

もし、あなたがその日の預金を全て使い切らなければ、あなたはそれを失ったこととなります。過去にさかのぼることはできません。あなたは今日与えられた預金の中から今を生きなければなりません。

だから、与えられた時間に最大限の投資をしましょう。そして、そこから健康、幸せ、成功のために最大のものを引き出しましょう。

時計の針は走り続けています。今日という日に最大限のものを作り出しましょう。

……中略……

だから、あなたの持っている一瞬一瞬を大切にしましょう。そして、あなたはその時を誰か特別な人と過ごしているのだから、十分に大切にしましょう。その人は、あなたの時間を使うのに十分ふさわしい人でしょうから。そして、時は誰も待ってくれないことを覚えましょう。

昨日は、もう過ぎ去ってしまいました。

明日は、まだわからないのです。

今日は与えられるものです。

だから、英語では「今」をプレゼント(=present)と言います。

(県高等学校文化連盟マスコットキャラ「かもえもん」)



「平成28年度 神奈川県高等学校総合文化祭」が閉幕

◆生徒委員会副委員長に本校の十河輝久さん(2年)

昨年の10月に「咲かせよう文化の花」をテーマに開幕した「平成28年度 神奈川県高等学校総合文化祭」が、1月15日(日)の総合閉会式をもって全ての日程を終了しました。運営にあたっては、関係教職員からなる実行委員会とともに、加盟専門部会と加盟校の代表生徒で構成される生徒委員会が活躍。さらに、生徒委員会は手話の普及と理解促進への貢献で県教委から表彰されました。

生徒委員会では、本校の十河輝久さん(2年・理科部会)が副委員長を務め、派遣激励会や文化フェスタ、総

合文化祭の開・閉会式の運営や夏の「全国高等学校総合文化祭広島大会」視察のほか、総合開会式・閉会式では、開会・閉会のことばを述べるなど、大いに活躍しました。

◆本校の文化部も3部門で受賞(敬称略)

【書道部門】(第53回高等学校書道展) 教育長賞: 二唐彩乃(1年) 専門部会長賞: 吉田紗和(1年)・成瀬真生(1年) / 【美術・工芸部門】(第63回高等学校美術展) 奨励賞(表紙原画候補): 木村安寿(2年)(第23回安全推進月間・作文募集ポスター原画コンクール) 優秀賞: 畠山実梨(3年) / 【軽音楽部門】 専門部会長賞: フォークソング部「Vento」